

## 実践女子学園渋谷校地の払下げについて

奥島 尚樹

## — はじめに —

現在の実践女子学園渋谷校地の成立に関し実践女子大学図書館所蔵下田歌子関係資料を細かく当たってみたが、「拝借」に関する契約書はあつたが「払下げ」に関する資料を見つけることができなかった。また、学園の資料も合わせて調査したが、具体的に記載された土地の売買に関わる資料もしくは登記に関する公的な文書等を見つけることはできなかった。

創設初期における校地の確保は、学校法人設置の根幹を成す非常に重要な要件であり、「払下げ」によるということであるため公的機関に資料として保存されたものがあるのではないかと考え、各公文書館を調査し、該当しそうな文書の多くを閲覧確認した。

幸いなことに宮内公文書館で経緯等を明確に記載した文書を見つけることができたので、内容を点検の上、以下に渋谷校地の成

立に関する経緯等を論ずる。

なお、現時点で支払いを証明する学園資料や正確な地図等不足する資料があるため、今後も調査を継続したいと考えている。

## — 渋谷校地の始まり

実践女子学園創設は明治三十二（一八九九）年であり、場所は東京市麹町区元園町二丁目四番地であつた。開設時には、私立実践女学校、私立女子工芸学校、私立実践女学校附属慈善女学校、私立女子工芸学校附属下婢養成所の四校が設置された。生徒数に対し校地は狭く教育施設は長らく学校として使用されていたことから、かなり老朽化していた。従つて開設当初より、教育環境改善のため新たな校地を探す必要に迫られていたと考えられる。その際に、なぜ当時は辺鄙な片田舎であり、交通の便も良くなかつ

た渋谷を選択することになったのであろうか。恐らくは将来を考えた面積を確保することを考慮すると、当時の東京市内の地価が高額で入手が困難だったことから、安価でまとまった広い土地を探した結果ということかとも思われる。また、下田歌子と皇室との関係から紹介もあったのではないかと推測されるが、現在まで調べた範囲では渋谷を選択した事情について、確たる根拠を見つけ出すことができていない。とはいえ、現在東京都内の一等地である渋谷で、学校が多く所在するエリアに校地を保有していることは、下田歌子の大きな功績の一つといえる。

「八十年史」には麹町から渋谷に移転する際の、当時の渋谷の様子やその入手経緯に関しては左記のように記載されている。

「新校地―そこは当時東京府下豊多摩郡渋谷村字中渋谷常磐松とよばれたが、現在の渋谷区東一丁目壹番地に当たっている。當時は宮内省常磐松御料地付近一帯で、青木副校長が「寂莫として昼なお人声を聞く事稀なる幽地」というように書いている。即ち、もと皇室御料の乳牛飼育場であったが、のちにこの御料牧場が千葉県三里塚に移転して、久しく鬱蒼とした樹林と草原のままになつていた。

下田歌子は、三十五年三月、この土地のうち、まず二千坪（六四八〇平方米）の十カ年の恩借を願出たところ、「特別ノ御詮議」を経て月末には公許され、直ちに契約書をかわして設営にかかった。當時の「地所拝借願」を示すと次の通りである。」

（「実践女子学園八十年史」九十二頁より）

図一―一〇図一―一七に地所拝借願等を示す。当初のみの予定だったか、未来永劫拝借する予定だったのかは不明確ではあるが、まずは移転先としての土地が「八十年史」に次のように記載されている通り確保でき、学校継続の目処が立ったことから下田歌子も一息付けたのではなかっただろうか。

「これによつて「地所借用契約」が交わされ、借地料は一カ年二十円（現在の価値に換算すると約九万円相当）、「借地の四囲に界標を建」てるとともに、「御料地乳牛場内に接続する境界には高さ六尺以上の板塀を設置すべし」とされた。」

（「実践女子学園八十年史」九十三頁より）

この拝借した校地は、現在の実践女子学園中学校高等学校の西門から120周年記念体育館辺りまでの校地となる場所であり、後に（昭和三（一九二八）年）に払下げを受けることとなる。

○契約に関して

初回 明治三十五年三月〇明治四十三年二月十カ年

第二回継続 明治四十四年三月二日〇明治四十八年十二月三十一日五年

「明治は四十五年までだが、契約書上は明治四十八年までとなっている」

第二回継続 大正五年三月二日〇大正九年十二月三十一日五年

第三回継続 大正十年二月二日〇大正十四年十二月三十一日五年

第四回継続 大正十五年二月一日〇大正十九年十二月三十一日五年

「大正は十五年までだが、契約書上は大正十九年までとなっている」

○御料地拝借に関する資料

〈1153〉御料地拝借関係文書

実践女学校長下田歌子二綴(十二通)

一 地所拝借願 主馬頭宛 明治三十五年

二 土地借用継続願

下総御料牧場長宛

明治四十四年、大正五、九、十五年

三 借地料受領帳 明治三十五〜四十三年

拝借した土地に関する資料は図一―二、図一―七①を参照。

## 二 渋谷校地の現状(令和五年四月)

実践女子学園の現在の渋谷校地は図二―一の通りである。ここに中学校高等学校及び大学の二学部(令和六年度より三学部)と短期大学部(令和五年度より募集停止)が整備されている。

明治三十五(一九〇二)年以降御料地の払下げを受けつつ、図二―一のような形まで校地の拡張・整備が行われてきた。

この校地の払下げに関しては、実践女学校の代表者として下田歌子が積極的に取り組んだものである。払下げ願書には、学生数の増加にあたり施設設備が追いつかない様子が記載されており、その文章からは実践女学校が発展していく様子が垣間見える。

渋谷校地は左記の通りの払下げにより成立したが、渋谷校地の「下田歌子先生喜寿記念碑」背面(図二―二)に刻まれている。本稿はこの記述の詳細を確認したものである。

宮内省常磐松御料地

〔第一回〕 御拂下年月日 大正十一年十一月十五日

御拂下坪数 二千五百坪

〔第二回〕 御拂下年月日 昭和三年八月三十日

御拂下坪数 三千九百八十五坪三合六勺

〔第三回〕 御拂下年月日 昭和六年十一月二日

御拂下坪数 一千七百九十坪八合

昭和七年十一月三日建之

※なお、御料地の払下げは皇室令第十六号「不要存御料地處分令」(大正七(一九一八)年)及び皇室令第十号「東京市京都市及其附近所在御料地の売拂に関する件」(大正十四(一九二五)年)により実施されており、下田歌子もしくは特別な人達に對してだけ特に払い下げたということではなく、広く一般に對して公平に行われたものである。

また、以下の内容に関しては、左記の宮内公文書館で調査した資料に基づき作成した。資料は量が大変多いため、本稿では必要と思われる部分を抜粋した。

宮内公文書館 識別番号 24157.1 分類 帝室林野局

「南豊島御料地 常盤松・氷川裏・伊勢山沿革史」

「東京市内旧御料地」

図面に関しては当該資料に付属していたものを抜粋して使用した。

※なお、現在の価値に換算することも必要であろうと考え、消費者物価指数に基づく計算を用いて換算し記載したが、あくまでも理解を促すための推定値として掲載しているだけであることを、ご承知おきいただきたい。

次項以降では宮内公文書館の資料に記載されていた、払下げに際しての時間的経緯等を挙げる。

宮内公文書館で閲覧することができた資料は、恐らく当時の省内で案件ごとに整理しとりまとめたと思われる資料を、昭和八（一九三三）年に和文タイプで打ち直したもので大変読みやすく、またきちんと整理された上で綴じられており、時系列も大変分かりやすくなっている。ただし、打ち直したものであるが故、ミスタイプ及び思い込みによる誤字と覚しき部分が散見された。

### 三大正十一（一九二二）年の「第一回払下げ」経緯等

第一回払下げに関しては次の通りの手順で実施された。

#### 一、土地拝借願（実践女学校より）

大正十（一九二一）年六月

常磐松御料地拝借願

理由書

#### 二、土地配下請求願書（同校より）

大正十一（一九二二）年五月十二日付  
請願書「払下げ」

三、土地拂受代金分納の義追願（同校より）  
大正十一（一九二二）年六月八日付  
追願書「料金分納追願」

四、土地拂下稟定（宮内大臣へ）  
大正十二（一九二三）年六月十五日同九日大臣決裁即日施行  
第三六九九ノ四号

常磐「盤」松御料地の一部実践女学校敷地として売拂の件上申  
東京府豊多摩郡渋谷町大字下渋谷

字常盤松三百貳拾壹番（宅地）

御料地内

一、見込面積約貳千五百坪（現約八二五〇㎡）

但別紙位置図（五〇号）の通り尚実測の結果小面積の増減免れず

此売拂代金約拾萬圓一坪に付金四拾圓別紙単価算  
定書の通り

売拂代金…金拾萬圓 「現約一億六千四百万円」

坪単価…金四拾圓 「現約六万五千円」

分納内訳…半額金五萬圓即納「現約八千二百万円」

半額金五萬圓拾ヶ年賦

#### 五、土地売買単価算定理由書（同官へ）

「大正十一（一九二二）年六月十五日文書と同日」

売買単価算定理由書

淀橋町所在登記所及税務署に就き調査

六、土地売拂の件上申(同官へ)

大正十一(一九二二)年八月拾六日長官決裁

第三六九九の五号

常盤松御料地の一部実践女学校敷地として売拂の件

七、土地売拂命令書(同官より)

大正十一(一九二二)年八月二十三日

宮内大臣官房文書課 宮発第四五八号

第三六九九の五号を以て上申の通御料地売拂の手続を為すべし

八、土地拂下許可指令(実践女学校へ)

大正十一(一九二二)年九月二七日同二〇月五日長官決裁

第三六九九の七号

常盤松御料地の二部実践女学校敷地としての売拂の件

九、土地売買契約書(同校より)

大正十一(一九二二)年十月十三日

売買契約書

十、土地売拂代金納入方請求(内藏頭へ)

大正十一(一九二二)年十月十四日長官決裁

第三六九九の八号

土地売拂代金納入方の件

十一、同上納入済通知(同官より)

大正十一(一九二二)年十一月一日

内藏甲第五六二号

通牒

左記金額十月二十六日納入済に有之候

金五萬圓也 財団法人帝国婦人協会実践女学校

十二、売拂土地引渡の件(実践女学校へ)

大正十一(一九二二)年十一月四日長官決裁同六日施行

第三六九九の十号

常盤松御料地実践女学校長に売拂の件

十三、同上受領證(同校より)

大正十一(一九二二)年十一月十五日

第三六九九の十一号

受領證

十四、土地売拂手続済報告(宮内大臣へ)

大正十一(一九二二)年十二月二日長官決裁即日施行

第三六九九の十二号

常盤松御料地実践女学校長に売拂の件

※文章中における住所の「常盤」の文字に関しては、「常磐」ではないかとの指摘を受けることが多いが、これは住所表記の変遷によるもので当時の標記として誤りではない。なお、引用した部分でタイプミス等と思われる部分が散見されたので、「」を用いて補記した。

これまでに記述した手続により、第一回の払下げに関わる手続及び半分の支払いが完了した。なお、校地の維持に関しては、明

治三十二（一八九九）年からの拝借部分の支払いが継続すると共に、第一回払下げ部分の分割支払いが発生することとなる。

第一回払下げにより入手した校地は図三一②の通りとなる。

御料地の払下げを受けたことにより、これまでかなり厳しい環境であつた校地の状況が改善され、新たな校舎等の建設とこれまで増築でしのいでいた校舎の改築等が実施されることとなつた。

図三一②は、大正十五（一九二六）年の様子である。

#### 四 昭和三（一九二八）年の「第二回払下げ」経緯等

第二回払下げに関しては次の通りの手順で実施された。

一、御料地整理の件伺（宮内大臣へ）

昭和三（一九二八）年八月四日大臣決裁

御料地整理の件

東京府豊多摩郡渋谷町常盤松一〇一番の内の

一 面積 七千四百四拾参坪七合五勺

同町八幡通り二丁目十一番の二

一 面積 百〇七坪二合五勺

計面積 七千貳百五拾壹坪

〔実践女学校、農業大学、隣接地主への払下げを実施〕

農業大学 一、二、二三六坪

坪単価七〇圓

実践女学校 〔三、八七三坪〕

二、〇〇〇坪（貸地） 坪単価六〇圓

一、八六八坪 坪単価七〇圓

五坪 坪単価七〇圓

隣接地主 一七六坪 坪単価八〇圓

二、同分筆方照会（淀橋税務署へ）

昭和三（一九二八）年八月十八日施行

御料地分筆の件 淀橋税務署宛

三、右回答（同署より）

昭和三（一九二八）年八月二十四日

直第一七五八号 官有地分筆の件 支障無

淀橋税務署 ↓ 帝室林野局

四、御料地拂下願（実践女学校より）

昭和三（一九二八）年八月二十八日

五、拂下げ代金分納願（同校より）

昭和三年八月二十八日

御料地拂下代金分納願（下田歌子）

六、拂下げ許可指令（同校へ）

昭和三（一九二八）年八月三十日施行

不要存御料地売拂の件

（按の二）

東京府豊多摩郡渋谷町字常盤松 九九、一〇〇番地

面積 三千九百八拾五坪三合六勺〔現約二万三千百五十一㎡〕

土地立木代金 貳拾五萬九千貳圓八十壹錢



〔現約四億四千七百万円〕

七、 払下代金分納許可指令（同校へ）  
（案の二）

〔土地代金等〕

東京府豊多摩郡渋谷町字常盤松九九、一〇〇番地  
但し分納の利率は五分とす

立木代金 貳拾七圓六拾壹銭

〔現約二万三千七百九十二円〕

第壹回 金参萬壹千九百四拾五圓壹銭

〔現約五千五百万円〕

第貳回以降 金参萬壹千九百四拾一圓

第拾回迄毎回

八、 拂下調書

常盤松御料地売拂調書

九、 拂下請書（同校へ）

昭和三（一九二八）年九月四日

御料地拂下請書

第二回払下げにより、図四―一の土地が実践女子学園の所有となる。①の部分が明治三十二（一八九九）年に実践女学校創設に際し拝借した土地で、②の部分が第一回払下げ（大正十一（一九二二）年）に払下げを受けた土地である。①③及び③の部分が第二回払下げを受けた土地となる。宮内公文書館の資料によると図四―二③の部分で

ある。

第二回払下げは農業大学、実践女学校、隣接地主に対するもので、払下げに関して、特に実践女学校に対してのみということではなかったことが分かる。また、それぞれの土地の性質により価格に若干の差があったことや、実践女学校が払下げを受けた土地には立木があり土地価格にその分が追加されていることや、残存している書類からも基本的な手続を経て適切な価格を計算し細部に亘って正規の手続によつて払下げが進められており、手続や価格が実践女学校だけ特別に軽減されたということではないことが確認できる。

五 昭和六（一九三一）年の「第三回払下げ」経緯等

第三回拂下げに関しては次の通りの手順で実施された。

一、 御料地拂下願（実践女学校より）

昭和六（一九三一）年七月八日

御料地拂下願（下田歌子）

東京府豊多摩郡渋谷町常盤松壹〇壹番の六

御料地（宅地）反別壹千七百七拾七坪九三

二、 御料地整理方針伺（宮内大臣へ）

昭和三（一九二八）年八月四日大臣決裁「参照として収載」

御料地整理の件

三、面積及び御価格更正(局議)

昭和六(一九三二)年九月四日施行

不要存御料地売拂に関する件

土地評価調書

東京府豊多摩郡渋谷町字常磐松百壹番の六

一、宅地千七百七拾貳坪九合貳勺

同所同番の拾七

一、宅地十七坪八合八勺

計二筆 面積千七百九拾坪八合

評定価額金拾六萬六千五百四拾四圓四拾錢

但壹坪に付金九拾參圓の割

備考

本地域内に別紙図面の(七三号)如く中央部に貫通道路敷幅員六間を存し其の以北の箇所中農業大学敷地寄りの大部分はこれを同大学用地として其の他従来の煉瓦塀外の部分並に道路敷残地は各接統地所有者へ又貫通道路以南の個所は現に実践女学校貸付地とも総て同女学校へ売拂の見込

但實際処分の場合には更に区域実測の積り

四、御料地合筆通牒(淀橋税務署へ)

土地表示変更登記嘱託(東京区裁判所渋谷出張所へ)

昭和六(一九三二)年九月四日

整甲第五一七一の二号

土地表示変更登記嘱託書

一、変更前「注…後の誤りか」の土地表示

豊多摩郡渋谷町常磐松百壹番の六

一宅地千七百七十七坪九合參勺

一、現在の土地表示

豊多摩郡渋谷町常磐松百壹番の六

一宅地千七百七十貳坪九合貳勺

一、登記原因及び其の日付 昭和六年九月四日実測減

一、登記の目的 土地表示変更の登記

六、御料地拂下願書更正(実践女学校より)

昭和六(一九三二)年九月三十日

御料地拂下願書更正願

※実測による面積減少(前述「五」への対応

七、御料地拂下代金分納願(同校より)

昭和六(一九三二)年九月三十日

御料地拂下代金分納願

八、右指令(同校へ)

昭和六(一九三二)年十一月二日施行

不要存御料地売拂の件

左指令相成可然哉

按の一

昭和六年七月八日拂下げ願

東京府豊多摩郡渋谷町常磐松百壹番の六



御料地(宅地)

一面積 千七百七拾貳坪九合貳勺

同府同郡同町同番の拾七

一面積 拾七坪八合八勺

計貳筆合面積千七百九拾坪八合

此土地立木代金 拾壹萬六千五百八拾八圓八拾五錢

〔現約二億五千六百万円〕

右許可致候

案の二

〔土地代金等〕

東京府豊多摩郡渋谷町字常磐松百壹番の六外壹筆

但し分納の利率は年五分とす

立木代金 七圓七拾七錢〔現約十七万二千二百十二円〕

第壹回

第拾回迄毎回 金壹萬四千参百七拾八圓八拾四錢

〔現約三千二百万円〕

九、御料地拂下請書(同校より)

昭和六(一九三二)年十一月六日

発第一二五号 御料地拂下請書(下田歌子)

この第三回の払下げ(図五―二④)により、図五―一のような現在の渋谷校地の原型が完成した。この後渋谷区への土地の寄附等が発生し、若干面積に変動はあつたが、ほぼこの時の校地を当

時のまま使用していることが、図二―一と比較すると分かる。

図五―二の図面を見ると実践の土地の中を道路が通っているように見える。これは図面上では「道路敷として無償譲渡地」とあるが、道路が実際にあつたのかどうかは明確ではない。この場所は図四―一、図五―一で③で示した部分となる。宮内省が作成した「御料地地図」(図五―二)では御料地内に道路があるように描かれているが、御料地の中を公道が走っていたことは考え難いことから、昭和三年の段階では恐らく道路予定地ということではなかつたかと考えられる。また昭和七年の「御料地地図」(図五―二)で「道路敷として無償譲渡地」と記載されているのは、実践女学校に対していずれ道路となると考え、その部分に関しては無償で譲渡したものと考えられる。なお、現在実践女子学園中学校高等学校正門側から六本木通りに向かう道路に関しては、先の「三、面積及び御価格更正備考」に記載されている「中央部に貫通道路敷幅員六間を存し其の以北の箇所中農業大学敷地寄りの大部分はこれを同大学用地として」と書かれていることから既に払い下げられた所では、昭和六年には道路が完成していたと考えられる。また、宮内省が提出した「五、土地表示変更登記嘱託(東京区裁判所渋谷出張所へ)」の文書によると、変更登記の記載住所が「常盤松」から「常磐松」に変更することも記載されており、名称の変更が昭和三年九月から六年八月までの間に発生したことが読み取れる。さらに推測すれば、それまでに土地表示変更登記を

行っていないことから、この払下げに近い時期に名称変更が発生したものと考えることができるだろう。

この第三回の払下げにより、実践女子学園の渋谷校地はほぼその形を整え、それ以降実習所の土地は別として、校地としては昭和三十七（一九六二）年に東京都南多摩郡日野町矢頭（現日野市大坂上）を購入するまでの間、学園の発展を支え続けて来たのである。

校地の購入は「拂下願書」にもある通り、「狭隘な校地・校舎の拡張」であり、現在で表現するとしたら「教育環境の整備」ということであつた。土地を入手したのであれば早急に整備をしなければならず、喜寿を越えた下田歌子は様々な申請や認可への対応で、休む暇もなかったことであろう。

## 六 まとめ

本調査により、実践女子学園渋谷校地に関しては三回の払下げが、正規の手続により執り行われ、正規の金額で取引されたことを明らかにすることができた。御料地であつたため、名称としては「払下げ」となっているが、実際には土地の売買契約手続が行われたということの良いであろう。

現在の金額には簡単に換算できるものではないが、文章中には一応の概算額を記載した。正確かどうかは別としても、その合計

額は相当なものであり、それを十九年（並行して支払っていた期間もある）で返済するためには、下田歌子及び支えた方々の努力はいかばかりのものであつただろうか。

年賦で支払ったことを証明する資料が下田資料にも学園の史料にも見あたらないため正確なことを記すことはできないのが残念である。今後は、下田資料に残る文部省（現文部科学省）への申請資料等に記載或いは添付されている、土地・建物に関わる数字や会計に関わる資料等から、大枠でも良いので土地・建物への支出等について何か見つけ出せればと考えている。

※「常盤松」から「常磐松」への名称変更は、「渋谷町字名地番改正誌」（渋谷町役場 昭和三年十二月十二日発行）によると、昭和三（一九二八）年一月一日に行われた「渋谷町字名地番改正」となっている。当時の情報伝達及び出版等の状況を考えると、変更が省庁まで徹底するにはしばらく時間がかかったものと思われる。

## 引用・参考文献

- ・「実践女子学園八十年史」実践女子学園昭和五十六年
- ・「渋谷町字名地番改正誌」渋谷町役場 昭和三年
- ・「渋谷学」國學院大學研究開発推進センター 渋谷学研究会平成二十九年

おくしま・なおき／下田歌子記念女性総合研究所 客員研究員

## 資料

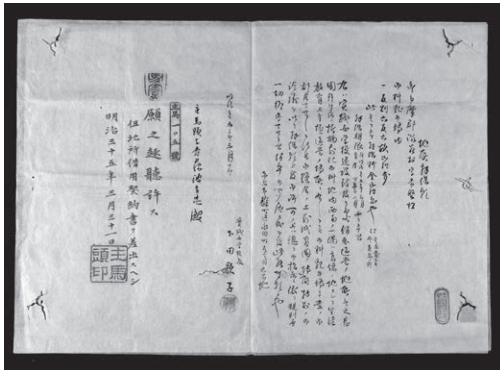


図1-1：地所拝借願（明治35（1902）年）  
（〈1153〉土地拝借関係資料）

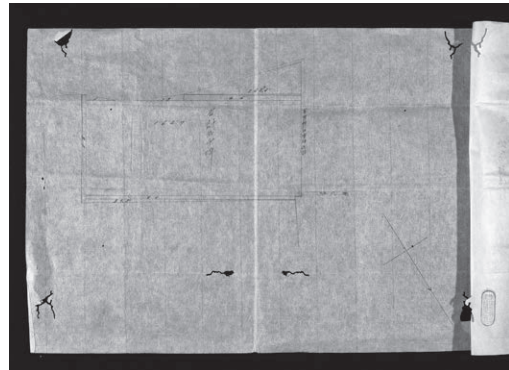


図1-2：地所拝借願（明治35（1902）年）図  
（〈1153〉土地拝借関係資料）

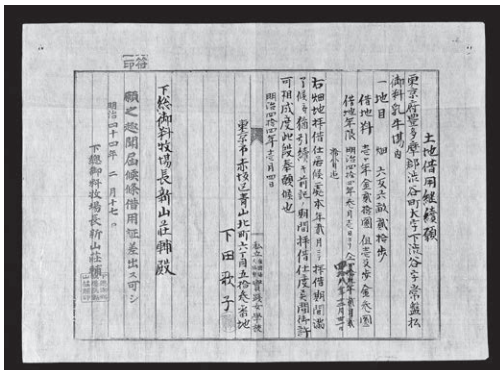


図1-3：土地借用継続願 明治44（1911）年  
1月4日付（〈1153〉土地拝借関係資料）

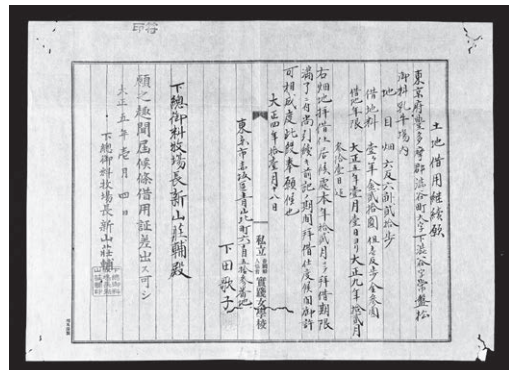


図1-4：土地借用継続願 大正4（1915）年  
11月18日付（〈1153〉土地拝借関係資料）

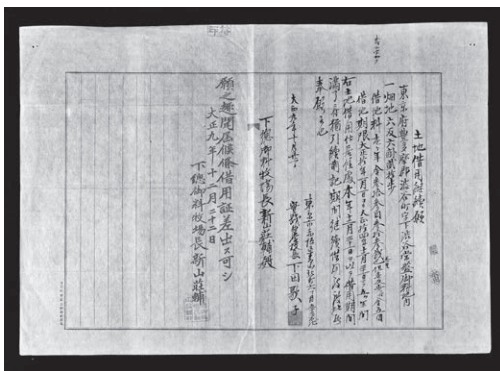


図1-5：土地借用継続願 大正9（1920）年  
10月21日付（〈1153〉土地拝借関係資料）

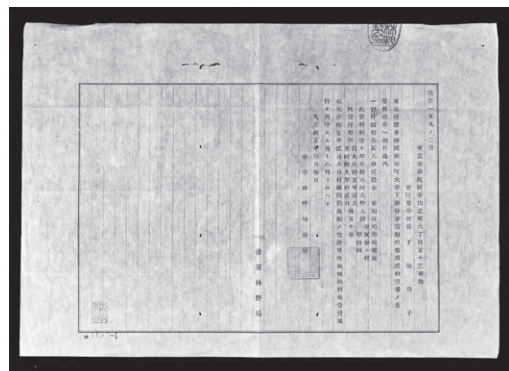


図1-6：土地借用許可 大正15（1926）年  
3月3日付（〈1153〉土地拝借関係資料）

## 資料

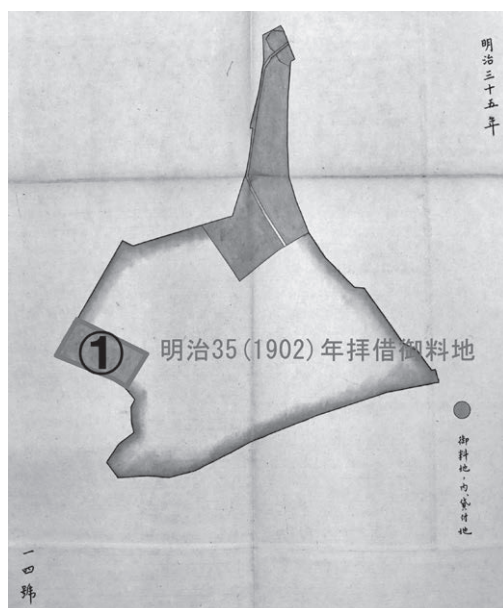


図1-7：実践女子学園渋谷校地 明治35(1902)年御料地地図  
 明治35(1902)年3月31日 拝借御料地  
 面積 6反6畝20歩(現 6,600㎡)  
 借地料 年額20円(現 約90,000円)  
 住所 豊多摩郡渋谷村字常盤松御料乳牛場



図2-1：実践女子学園渋谷校地 令和5(2023)年現在  
 [120周年記念館竣工時図面より]



図2-2：下田歌子喜寿記念碑〔背面〕  
 (3258) 下田歌子喜寿記念碑より



## 資料



図3-1：実践女子学園渋谷校地  
大正11(1922)年御料地地図  
大正11(1922)年払下げ御料地  
面積 約2500坪(現 8,250 m<sup>2</sup>)  
価格 金100,000円(現 164,000,000円)  
住所 東京府豊多摩郡渋谷町大字下渋谷字常盤松  
三百貳拾壹番

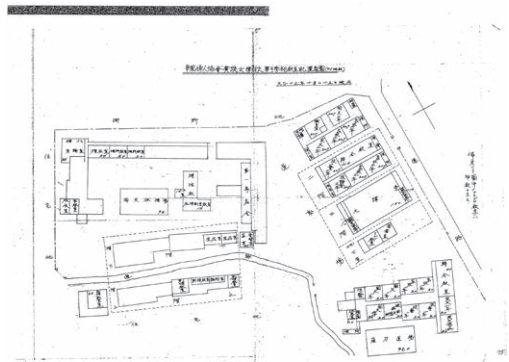


図3-2：実践女子学校校舎配置  
大正15(1926)年

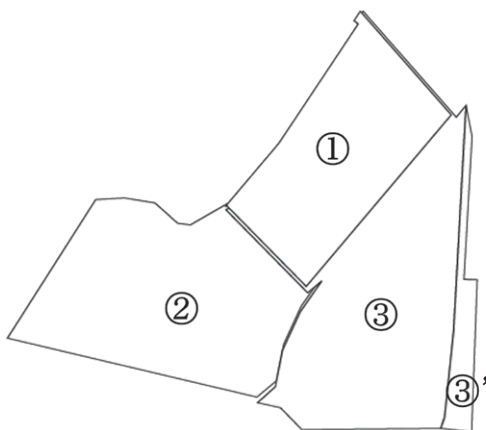


図4-1：第1、2回払下げによる校地  
昭和3(1928)年  
面積 約3,985坪(現 13,151 m<sup>2</sup>)  
価格 金259,002円81銭(現 447,000,000円)  
住所 東京府豊多摩郡渋谷町字常盤松99、100番地

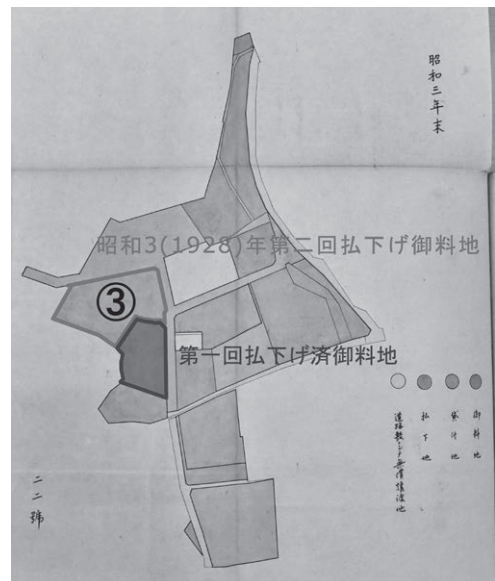


図4-2：実践女子学園渋谷校地  
昭和3(1928)年御料地地図

## 資料



図5-1：第3回払下げによる校地 昭和6(1931)年  
面積 約1791坪(現 5,910㎡)  
価格 金116,588円85銭(現 256,000,000円)  
住所 東京府豊多摩郡渋谷町字常磐松101番地6外1筆

- ①移転のため拝借した土地
- ②第一回払下げ
- ①③③'第二回払下げ
- ④第三回払下げ

※④の部分については、現在の土地の図から作成したものであるが、六本木通りの工事に際し若干寄附等により減歩されたものと思われる。

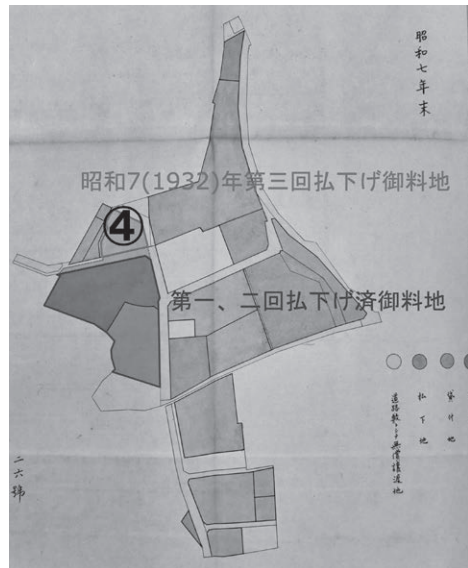


図5-2：実践女子学園渋谷校地  
昭和7(1932)年御料地地図

---

Shibuya Campus of Jissen Women's Educational Institute:  
On How to Purchase Utako Shimoda

OKUSHIMA Naoki

We have been unable to gather clear information about the Shibuya campus of the Jissen Women's Educational Institute, apart from the fact that it was either sold or gifted by the Ministry of the Imperial Household. We investigated whether the land was gifted or sold and found documents in the Imperial Household Archives that shed light on the circumstances surrounding the land sale. These documents provide a detailed account of the sale and will help clarify the situation.